

平成 30 年度 事業計画書

基本的な考え方

【平成 26 年度～平成 30 年度事業推進における最終年を迎えて】

平成 26 年度からの 5 か年は、少子・高齢化社会における民間の公益活動の必要性に鑑み、「一人ひとりが社会を作る主体としての責任を果たすため、企業フィランソロピーを核に個人の社会参加への道筋をつけ、民主主義の健全な育成をめざす」と明言いたしました。その最終年度を迎えるに当たり、個人寄付推進のための具体的な事業を始めるべく、企業・行政・学校・NPO などセクターを超え世代を超えて、多様な人々の協働を呼びかけます。社会課題を取り巻く現状は深刻かつ複雑化しておりますが、それだけに、現実を知り、支援の原点を見据え、企業を核としつつ、各セクター間のコーディネーターとしての役割を果たしてまいります。

【民主主義の健全育成をめざすフィランソロピー推進のあり方】

★企業フィランソロピーについて

企業の従業員はじめステークホルダー参加型の企画立案およびその推進に努めます。この 1 年で、急速に SDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まってきました。2016 年、国連加盟国で採択され、2030 年に向けて貧困や環境など 17 の目標と 169 の項目の具体的な達成基準が盛り込まれました。ただ、実際には、マッピングに終始しているのが現実です。2030 年からのバックキャスティングの考えに立ち、企業内で有効に機能するよう、担当部署だけではなく、他部署・経営層の理解や参画を得るための機会を積極的に作っていき、企業内全体の理解促進につなげてまいります。また、大企業だけではなく、中小企業へのアプローチも始めます。

具体的には、テーマ×次世代育成の視点を入れた事業展開を進めます。近年、青少年の課題が非常に深刻かつ複雑化しています。青少年問題はあらゆる社会課題の縮図として表出しており、セクターを超えて連携しながら、社会全体で包括的に取り組むものとして企業にも提案いたします。

従業員のボランティアや寄付参加も、従業員の共感と人間としての矜持を掘り起こすため、顔の見える関係づくりの工夫を心がけます。さらに、NPO などボランティアの受け入れ団体のニーズに沿った事務局ボランティアなどのメニュー開発もし、より役に立つボランティア活動を示してまいります。フィランソロピーの原点は個人であることを再確認しながら、従業員の人材育成という視点も見据え、事業に取り組みます。

★個人フィランソロピーについて

青少年の「寄付育」を核としたサービスラーニング教育を推進してきましたが、来年度は、その実践校をさらに掘り起こし、広く紹介する事業を展開してまいります。また、企業フィランソロピーとの連携を強化し、企業人、教師との対話の機会を創出し、共に子どもたちの健全育成に取り組む仕組みづくりをしてまいります。

個人寄付の促進に関しては、20年にわたる「まちかどのフィランソロピスト賞」の実績をベースに、寄付促進のためのプラットフォームと寄付の受け皿を作り、具体的な寄付行動につなげてまいります。

★東日本大震災被災地支援について

チャリティー・リレーマラソンは、平成30年度で7回目を迎えます。東北・東京・熊本の生徒のネットワークを深めると共に、東京オリンピック・パラリンピックを契機として、更なるネットワークの広がりを企業と共に創っていきます。

農業を核にした地域支援、障がい者スポーツ支援を中心に、彼らの力と心を興し、被災地復興から地域創生へと進め、当協会はその推進のためのコーディネーターとして、世代を超え、「次世代の幸せのため」という共感を創りながら、引き続き、復興事業の一端を担っていきます。

【基本方針】

社会貢献を核とした企業のCSR推進

個人の寄付・ボランティア推進を通じたシチズンシップ醸成

NP0の組織基盤強化

企業連携および各セクター間の連携を促進するため、コーディネーターとしての役割を果たして以下の事業を展開。

★社会貢献を核に、企業のCSR推進に寄与する事業

- ・企業のCSR・社会貢献担当者および経営層の研修事業を展開。同時に、各社の特徴を生かしながら、社会の課題解決のみならず、新たな価値創造のためにより実効性のある社会貢献活動の企画提案と運営支援を担う。
- ・社会課題解決に向けて、複数企業や行政・NP0・学校との連携による事業推進のためのコーディネート機能を担う。

★個人フィランソロピーにおける寄付活動の活性化を図る。

- ・従業員はじめステークホルダーの寄付・ボランティアを促進する
- ・青少年の「寄付育」推進に向け、企業人との連携サポートをする
- ・誕生日寄付事業を開始し、個人の寄付促進の啓発およびプラットフォームを作る
- ※ 企業フィランソロピーと個人フィランソロピー推進の連結を模索する

★寄付の受け皿であり、社会課題解決を主に担う NPO 等の組織基盤整備のための人材育成事業を遂行する。

★東日本大震災復興支援を地域創生につなげるため、農業は障がい者等の就労を含む、農福連携を視野に入れた事業、障がい者スポーツに関しては、企業と学校連携事業を進める

平成 30 年度の事業計画

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

市民、団体、企業のフィランソロピー（社会貢献）活動を啓発、啓蒙するとともに公益活動への関心と知見を深める事業

1. 機関誌の頒布事業

（1）機関誌『フィランソロピー』の発行（年 6 回発行）

当協会の活動報告とともに、複雑化・多様化する社会の課題を抽出し、多角的な視点から捉えて、よき社会について考える特集を企画・編集する。

同内容を、日経テレコンに掲載する。

2. 書籍の出版事業

（1）当協会 30 周年記念誌（フィランソロピー総覧）の発行に向けた準備をスタートさせる。

3. インターネットを利用した情報提供事業

（1）メールマガジン（毎月 1 日・15 日配信 配信数約 6,000 件）

（2）当協会 WEB サイトリニューアル

より閲覧する側に立った WEB サイトにという事を考えて、閲覧者を分類して導線考えたページ構成にリニューアルする。

当協会の活動をはじめ、企業の社会貢献・CSR 情報の提供、非営利団体の活動情報を配信する。

（3）SNS（随時配信）

Facebook、Twitter、理事長ブログ

当協会の活動をより広い対象に、よりタイムリーに発信するために SNS により情報を配信、今年度より理事長ブログでの配信も新たに計画。

ホームページ、メールマガジン、SNS など、それぞれの特徴を生かし、協会の活動を様々なツールを使い、多種多様な読者のニーズにあった情報発信をする。

Ⅱ．社会貢献促進事業（公益目的事業２）

主に企業、団体の社会貢献担当者、NPO・NGO 職員を対象とし、社会貢献・社会的責任に対する考え方、組織運営等に対する能力開発、更には具体的な活動を支援する事業

1. 研修事業

（１）企業の CSR 担当者向け月例セミナー

- ・毎月開催（８月を除き毎月開催。４～６月は基礎講座として５回開催）
- ・企業の CSR 担当者等を対象としたセミナーで、CSR 経営、社会貢献や社会的責任等に関するテーマでセミナーを開催、講演後のグループディスカッションを通して、参加者の啓発・知見を深めると共に、参加者間のネットワーク作りをめざす。

（２）地方セミナー

- ・主に大阪で開催するセミナーとして、年４回程度開催。

（３）経営層に向けたエグゼクティブセミナー

- ・５回シリーズで開催。
- ・ESG、SDGs など、企業経営において、グローバル展開の点でも、投資家・顧客の関心も高まってきており、CSR 推進は、経営層の理解が不可欠であり、環境や人権など、広く CSR 関連のセミナーを開催する。中小企業にも広げて開催する。

（４）企業協働型社会貢献推進事業（Stone Soup Club）

会員企業の CSR・社会貢献担当者を対象にした、企業の垣根を越えた協働型の社会貢献活動を企画・実施。

- ・体験プログラム（ボランティア、視察、等）（１～２回）
- ・勉強会・意見交換会（テーマを設けての講演会、グループディスカッション中心のワークショップ、等）（３回程度）
- ・協働参加型社会貢献プログラム（被災地への絵本の寄贈プログラム：１２月、等）

2. 顕彰事業

（１）第 16 回 企業フィランソロピー大賞

- ・社会問題に真摯に向き合い、自社の経営資源を活かして、経営理念に沿った社会貢献活動や価値創造をする企業を顕彰することで、企業 CSR 経営の普及・啓

発につなげる。

3. フィランソロピーバンク事業（個人寄付普及事業）

寄付文化の醸成を図るため、企業および従業員など個人の寄付啓発と寄付機会の提供を目的とする。

- ・企業による NPO 等非営利団体および個人への経済的支援事業（寄付・助成・奨学金等）
- ・企業の従業員はじめステークホルダーと企業の協働による NPO 等非営利団体および個人への経済的支援事業（寄付・助成・奨学金等）
- ・個人による NPO 等非営利団体および個人への経済的支援事業（寄付・奨学金等）

※ 寄付先 NPO および個人選定に関する調査、寄付金および奨学金配布業務、寄付後の活動報告などフォローアップを行う。

（1）企業の従業員および顧客参画寄付事業

社名	内容
アメリカン・エクスプレス	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付、ならびにカード会員のポイントによる寄付を計画中。
株式会社 NTT データ	IT と障がい者をテーマとして活動している 3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境関連 33 団体に寄付。
株式会社ジェシービー	被災地復興支援として、復興関連の 20～25 団体に寄付。
FIL Foundation	NPO の基盤整備を対象として 4 団体に寄付。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算し、全国 10 ヶ所の重度心身障害者施設に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員、および会社からのマッチングによる寄付プログラムより、コミュニティ、次世代、環境等の課題解決に取り組む 30 数団体に寄付。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付プログラムより、様々な社会課題の解決に取り組む 5 団体に寄付。
明治安田生命保険相互会社	全国で開催する「愛と平和のチャリティー・コンサート」の会場で集められた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。
	従業員の募金を原資にした寄付金を、高齢者・障がい者福祉ならびにダイバーシティ推進の分野で活動する 10 団体に寄付。
株式会社ゆうちょ銀行	無通帳型総合口座の開設数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境関連 13 団体に寄付。

(2) 企業の奨学金給付事業

- ・東京海上日動あんしん生命保険株式会社の20周年記念事業として遺児への奨学金事業および教育支援事業を実施する。3期目。奨学金新規50名と幼児教育支援100名を公募し、選考する。

4. フィランソロピー社会基盤整備事業

(1) 個別企業社会貢献推進事業

個別企業に対し、その社会貢献活動に関するコンサルティングを実施し、その企業に最適な具体的なプランの企画提案を行う。さらに実行段階において当協会が運営の主体となる、あるいは事務局を担う場合もある。

A. 従業員ボランティア支援事業

企業の社会貢献活動として従業員のボランティア活動プログラムを企画提案する。平成28年度から運用を開始した「ボランティアウェブ」(ボランティア募集および受付管理を行なう専用ウェブサイト)を更に発展させて、ボランティアと事務局、および受け入れ団体が双方向に情報交換ができる場とする。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| ・アクセンチュア株式会社 | ・MSD株式会社 |
| ・株式会社オリエントコーポレーション | ・サントリーホールディングス株式会社 |
| ・株式会社ジェーシービー | ・新日鉄住金エンジニアリング株式会社 |
| ・積水化学工業株式会社 | ・大日本印刷株式会社 |
| ・東京ガス株式会社 | ・株式会社NTTドコモ |
| ・阪急阪神ホールディングス株式会社 | ・PGF生命 |
| ・フィリップモリスジャパン株式会社 | ・明治安田生命保険相互会社 |
| ・日本ロレアル株式会社 | ・リシュモン ジャパン株式会社 |

B. 助成審査支援事業

- ・田辺三菱製薬株式会社(手のひらパートナープログラム 事務局運営)
 - a) 第5期 完了報告会
 - b) 第6期 中間報告
 - c) 第7期 募集・選考対象: 330種の難病指定患者団体および支援NPO
- ・日本たばこ産業株式会社(NPO助成事業・第1次書類審査)
対象: 地域コミュニティ再生と活性化に取り組む事業

C. NPOリーダーのためのリーダーシップ育成プログラム

★第10期 アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー

- ・NPO・NGOの若手リーダーを対象とし、リーダーシップ能力やビジネススキル

習得のためのプログラムを提供する。

- ・研修を通じて NP0、行政機関などの職員間のネットワークを構築し、全国の志高い人材育成につなげ、NP0 セクターの育成をめざす。
- ・2月の東京に続き、5/31～6/2の2泊3日で福岡にて開催予定。定員は30名。
- ・9月6日には東京、12月には福岡のフォローアップセッションを開催予定。

★10期記念プログラム

- ・平成21年よりスタートして第10期となる平成30年度に、これまでの研修卒業生（約700名）を対象にした一日の研修プログラム。実施時期は9月ごろを想定している。

D. 被災地復興支援事業

★キリン絆プロジェクト

①「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」

平成24年度からの「東北復興 農業トレーニングセンタープロジェクト」の経験を活かし、平成28年度からキリングroupが実施している全国の食を通して地域創生に取り組む若手経営者たちのネットワーク創り「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」の3年目。東北での取り組みと統合して1本化され、当協会も公益的な観点からのアドバイザー役として事務局に参画。

② キリン絆プロジェクトのフォロー

第一ステージ、第二ステージ、関連のフォローアップに随時対応。

★サントリー・チャレンジド・アスリート

サントリーグループの東日本大震災復興支援「サントリー東北サンさんプロジェクト」の一環として「チャレンジド・スポーツ（障がい者スポーツ）への支援」を本年度も継続。当協会が実施運営協力。

- ・「サントリー東北チャレンジド・スポーツ応援基金」
 - ・・・平成26年3月に立ち上げ。基金を通じて、岩手・宮城・福島県を対象に7年にわたり継続して支援。
- ・「チャレンジド・アスリート奨励金」
 - ・・・第5期の公募、審査、助成。
- ・「チャレンジド・スポーツアカデミー」
 - ・・・毎月岩手・宮城・福島県の小中学校の体験授業実施。本年は新たにボッチャの体験授業を実施予定。一般の方も参加できる体験教室を岩手県で実施予定。
- ・「チャレンジド・スポーツ育成サポート」
 - ・・・行政のニーズを探り実施。岩手県、宮城県は車椅子導入指導者講習を実施。福島県は選手育成プログラムを実施予定。

★チャリティー・リレーマラソン東京 2018

平成 23 年 12 月（神戸）にスタートし、東京開催（平成 25～29 年）に続き、7 回目となる。東北の生徒が地元復興のための課題探しと解決方法を考え、他地域の生徒がそれを募金で応援する。本年も熊本からの参加者を含め、参加した生徒たちのシチズンシップ向上と、チャリティー・ネットワークの形成を目的としている。

開催地：東京、宮城、熊本

実施時期：平成 30 年 5 月～12 月

マラソンプログラム実施予定日：平成 30 年 7 月 14 日（土）・15 日（日）

参加者：岩手・宮城・福島・熊本の 7～8 校の中学生、
東京の 7～8 校の中学生、
協賛企業の社員ボランティア

E. CSV 支援事業

★王子ネピア株式会社「ボランティア演芸会」

プロの落語家たちが介護施設のお年寄りに「元気」と「笑い」を届けるボランティア演芸会。その趣旨に賛同した王子ネピア株式会社が業務用大人オムツ等の売上の一部を支援。

開催地：全国の介護施設

回数：年 80 回

演者：全日本おむつ団（笑福亭鶴笑を中心とした東西 10 名の落語家）

F. 環境・社会貢献活動支援

★東京ガス株式会社「森里海つなぐプロジェクト」

地球温暖化防止に向けた対応として森林、里山、海、を守る環境・社会貢献活動。森、里、海、それぞれの地域で、自治体、NPO、顧客、などと連携しながら、社員参加の環境保全活動や、助成事業、顧客ポイントも加算した寄付、社員ボランティア参加事業などを実施。

★日本製紙株式会社「森と紙のなかよし学校」

日本製紙グループが持つ社有林（群馬県・丸沼高原）で行う 1 泊 2 日の環境学習イベント。社員ボランティアが企画・運営し、首都圏より親子 30 名を公募する。

G. 新入社員研修

★東京海上日動火災保険株式会社

平成 30 年度入社予定の約 600 名に対して、全国 11 会場で新入社員研修プログラムを実施する。地域創生に触れながら、社会人として体験学習を通じて企業・

企業人としてのあるべき姿を体得するためのプログラム構成。

F. 「あげます・もらいます」

会員企業限定のプロジェクト。ノベルティや文具など、企業からの寄贈品を必要とする市民団体へつなぐ、随時対応。

Ⅲ. 共生社会創造事業（公益目的事業3）

より良い社会を形成するために、個人が社会参加できる機会を提供し、一人ひとりが自立・共生する生活の実現を支援する事業。

1. 共生社会づくり推進事業

（1）寄付醸成事業

A. 誕生日寄付運動事業

誕生日に寄付をするということをコンセプトに、寄付文化の啓発と行動を推し進める、今年度新規事業。

- ・推進委員会実施
- ・寄付の受け皿、サイト構築

B. 寄付川柳

寄付社会醸成のために広く一般に寄付川柳を募集する。

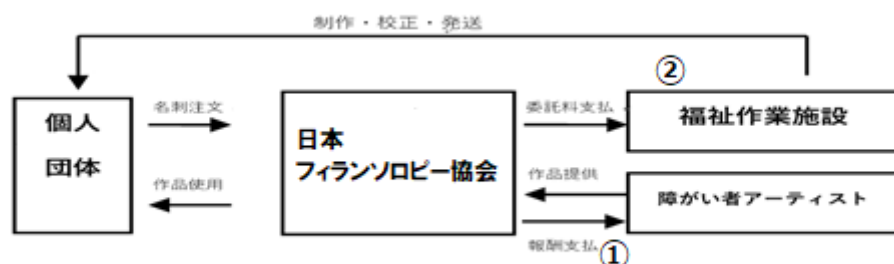
参加費：高校生以下無料、以外は2句まで1,000円

参加費は「チャリティー・リレーマラソン」事業に。

（2）フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺制作事業。今年度も新たな作品を追加し、本事業を積極的に広く紹介していく

- ① 名刺の収益の一部を障がい者アーティストの収入とする。
- ② 印刷作業を「新宿区勤労者・仕事支援センター」に委託することにより、障がい者の就労機会づくりに貢献。



	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度 見込	30 年度 目標
制作件数	380	270	333	356	360	400

(3) 声の花束

平成 12 年の専用ウェブサイト立ち上げ時から今日までにボランティアが音訳した 800 以上の音訳コンテンツを無料で公開している。平成 27 年からは、ドコモサポートの音訳ボランティアグループが、業務時間外の時間を活用して活動を行っている。

2. 次世代育成事業

(1) 寄付推進事業

中学生を中心に、青少年の募金・寄付を核にしたサービスラーニング事業の展開。地域資源に着目し、企業人、大学生等がそれぞれの知見や経験を活かし、中学生等の学びに伴走しつつ地域に参加する。思いやりあるコミュニティづくり、ひいては地方再生に寄与するための、次世代の担い手である青少年の健全育成をめざす。

(2) 子どもの貧困伴走コーディネーター研修事業

「子どもの貧困」課題解決に向けた複数企業や団体との協働プロジェクトとして、平成 28 年度・平成 29 年度に実施した研修事業の本格的体系化をめざし、カリキュラム作成、研修を実施する。支援の場でのファシリテート等を担う者の研修プログラムを完成させ、実施する。

IV. 会員増強

会員の推移は以下の通り。経済環境は厳しい状況にあるものの、「新しい公共」が謳われる中、企業として社会全体の健全な発展に寄与することの必要性、重要性の認識は高まりつつある。当協会がめざす理念を積極的にアピールし、フィランソロピー活動へのきめ細かな支援を通し、会員数の増加に努める。

会員数の推移

(実績値は年度末値)

	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度見込	30 年度目標
正会員	34	34	33	29	27	27
賛助会員(法人)	80	79	81	88	93	105
法人会員 計	114	113	114	118	120	132
賛助会員(個人)	88	89	83	87	90	100

V. 特定費用準備資金活用事業

1. フィランソロピー活動 30 周年記念事業

(1) フィランソロピー総覧作成 . . . 書籍の出版事業 (公 1)

2. 情報システム更改

(1) WEB サイトのリニューアル . . . インターネットを利用した情報提供事業 (公 1)

以上